

ゴミを減らそう!!



廃食用油燃料化施設の正面に「みやこ・めぐるオイル」の表示



表彰式の風景



地域ごみ減量推進会議での回収風景

バイオディーゼル燃料の

愛称 & マスコットキャラクター

(愛称)

みやこ・めぐるオイル



みやこ・めぐるオイル

京都市

CONTENTS

- ◆特集 1 「京路地フェスタ2004」 ②
- ◆特集 2 蛍光管の適正処理のために ④
- ◆NEWS 買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン実施 ⑥
- ◆行政からのお知らせ コミュニティ回収制度を創設 ⑧
- ◆Report 知っておきたい。自動車リサイクル法のポイント ⑨
- ◆会員探訪 株式会社 京都銀行 ⑩
- ◆Series 「やってみよう。わたしのほむ町で、ごみ減らし」 ⑪ ⑫
 - 元町ごみ減量推進会議（北区）
 - 六原地域ごみ減量推進会議（東山区）
 - 出水地域ごみ減量推進会議（上京区）
 - 沼野ごみ減量推進会議（上京区）

バイオディーゼル燃料化事業の動きが活発だ。97年京都市ごみ減量推進会議が市民による使用済みてんぷら油の回収に協力する形で開始されたこの事業、7年の実施を経て、04年6月廃食用油燃料化施設（伏見区横大路）が完成し、稼働が本格化してきた。そんな中で、市民にいっそう親しまれる事業にとの狙いから燃料の愛称を募集。177点の応募の中から選ばれた最優秀作品となった「めぐるオイル」をアレンジし「みやこ・めぐるオイル」に決定。施設の正面に表示され、ポスターなどにも用いられる。

また、この事業は平成16年度創設されたバイオマス活用優良表彰において環境への取組に先導的な役割を果たしたとして農林水産大臣賞に輝いた。同時に、京都市には「バイオマスフロンティア」の称号が付与されました。

※バイオマス活用優良表彰について
バイオマス（再生可能な生物由来の有機性資源で化石燃料を除いたもの）の総合的な利活用を推進するため協議決定された「バイオマス・ニッポン総合戦略」の下、食品廃棄物、間伐材などのバイオマス活用を図るため、優良な活動に対する表彰制度。

「京路地フェスタ2004」

京の「ごみ減らし」の知恵を体験

04年11月6日・京都市役所前広場 京都R副代表 野村直史

◆「Miyako(京都)」+「ecology(エコロジー)」=「Miyacology(京路地)」!

歴史や伝統がつく京都には、物を大切にする文化がある。善物は好例で、頼から子に受け継がれたり、人に譲ったり、染め直したり、着られなくなれば着直しとして活用したり、とことんまで利用される。また、京都は伝統工芸師のように、職人が活躍する場でもある。職人こだわりの物品が大切に用いられ、修繕・修繕などを指して未末と使われる。こうした文化は、実は「ごみ減らし」につながるものである。さらに、京都には環境問題に取り組む市民団体や企業も多くある。京都には「ごみ減らし」のヒントがたくさ隠されているのである。

菓定庫のまち、京都から発信される「都市(京都)とエコロジーをつなぐ新たな概念」として、京都Rが考え出したのが「Miyacology」とい言葉である。漢字では、京都の特徴である「路地」を用いて「京路地」と書く。この「京路地」を体験・共有し、多くの市民の手でごみの減量を自覚すお祭り、それが「京路地フェスタ」なのである。

◆志はあれども・・・

大学関係も多い「京都R」では、活動時間の確保や人員の確保には苦労した。また、開催コンセプトの表現や伝達も十分だったのか、プース出席や協賛もままならなかった。しかし、大学教授や市職員、市民団体や企業の方などから助言や協力ももらい、ようやくフェスタの企画が形としてまとまった。それそれの立場を超えて参加・協力してくださった方々の熱意や協力に広えたいの思いが、すべてを投げ打って準備に専念込んだスタッフ一同の努力と結びついたからこそ、「京路地フェスタ」が開催できたのだと思う。

◆市役所前はお祭り広場に

広場には、企業や市民団体の活動や製品などのアピール、行政の取り組みの紹介、ごみ問題テーマにしたゲームやフリーマーケットなど、バラエティ豊富なブースが並んだ。いなくなつたものを有効利用しながら、自分たちの愛用品を作るコーナー「マイグッズを作ろう」は、終日、親子連れにぞむいた。また、リユース容器体験を目的とした提供ブースや、バックカー車へのごみの投げ込み体験、スペースを通して有害ごみについて知る「えるちえ(LCA)アドベンチャー」など、京都Rが企画したブースにも多くの方が足を運んでくださった。

また、市役所の正式協賛で行ったステージ企画では、ごみ問題と直面向き合う企画を設けた。特に、市が企画した「家庭ごみ指定袋作りを語る!青空タウンミーティング」は、指定袋導入後の検討部会を文字通りの真意の、多くの市民を交え行う画期的なものであった。

◆フェスタを終えて

一度の祭りで目に見えてごみを減らせるわけでもなく、フェスタを通して自分たちのコンセプトを十分に伝えることができなかった点なども含め、感じている課題は多い。昨年度、京都市では「循環型社会推進基本計画」が策定されたが、循環型社会の実現には、人と人、団体と団体、コミュニティとコミュニティの連携は欠かせない。バラバラな活動が結び、滞っている情報が流れ、人と人の交流が生まれて初めて、モノの循環も資源の有効利用も可能になる。市役所前に様々な立場の人が集まった今回のフェスタで、そうした光景に出会えたことは何よりの成果であった。主催した私たち自身も満足いく、多くのつながりを持ったのである。

京都Rでは、フェスタを開催するだけでなく、ごみ減らしに貢献する京都市内のお店などの情報をホームページで紹介する取り組みを実施している(<http://www.miyacology.com/>)。また、それを冊子としてまとめ、発行することも計画している。こうした活動が、一人でも多くの人へ広え立ち、ごみの減量につながるれば幸いです。

最後に、フェスタの実現のため、懸命に動いてくださった皆様、温かい協力の手を差し伸べてくださった皆様、心からの感謝を申し上げます。

秋晴れのさわやかな天候のもと、「京路地フェスタ2004」が開催された。昨年度6月の「京都ごみ祭」を継承したこの催しのテーマは「ごみの減量」。ごみ減らしの秘策を求めて来た人たち、お祭りムードに誘われてきた人たち、様々な人が京都市役所前広場に集まった。主催したは、「京都ごみ祭2003実行委員会」のメンバーを中心に立ち上げた「京都R」という学生主体の市民グループであった。

「京路地フェスタ2004実施概要」

- ◆主催：京都R
- ◆協賛：(シブコリコ)コンサルタンツ(株)・関西電力(株)・イオン(株)(西日本カンパニー)・イー・エヌ・エー(株)・関西ガスメーター(株)・京都府農事協同組合(社)・京都府産業廃棄物協会・京都府教育委員会(株)・染めのなむら・フレームテック(有)
- ◆後援：京都市・京都市ごみ減量推進会議・京エコロジーセンター・京のジョングッズ21フォーラム・京都新報社・朝日新聞京都総局・NHK京都放送局・エフエム京都・KBS京都・京都銀行・京都市中央信用金庫(財)大塚コンソーシアム京都
- ◆開催日：2004年11月6日(土) 10:00-17:00
- ◆目的：
 - ・幅広い市民層を対象に、広く「ごみ問題」について、知り、関心を持ち、さらには考えてもらう機会を設けること
 - ・「ごみ問題」を含む環境問題について取り組んでいる各団体、個人間の出会いや情報交流の場を提供し、温やかなネットワーク化のきっかけとすること
 - ・ものを大切に、長持ちさせる京都の文化・伝統を再認識し、「みやこのライフスタイル」を提案、実践する機会を設けること
- ◆企画内容：
 - ◆「プース企画」>えるちえ(LCA)アドベンチャー(バックカー車ごみ投げ込み体験、ぷーとんcafe、京都地紹介プース、マイグッズを作ろう)、企業・市民団体プース(企業・2社、市民団体・・・19団体、中小店舗・・・1)、行政プース、ハイムン原画展、フリーマーケット(6社)
 - ◆「ステージ企画」> 総合司会：しもむち(あすてーション) プース紹介、京路地紹介、京路地環境展(塾長：内藤正明(京都大学名誉教授)、リレートーク)どうする廃棄光景)、家庭ごみ指定袋作りを語る!青空タウンミーティング、環境市民のしゃべりラジオ出演放送(エコファイターショー、ich-man-benファッションショー、出前「3D」(「さら」による生演奏

- ◆参加者数：約9,000人(会場にカンパセ、パブリック配布物、市役所前広場の各のフリーマーケットの入場券数から約計)
- ◆ボランティアスタッフ数：約70名
- ◆京路地フェスタの開催に関わった関係者のスタッフ：
 - 相原秀之(フリーマーケット)、尾形浩一郎(京路地紹介)、柿沼公二(フリーマーケット)、河井祐樹(代表)、栗林直史(プース紹介)、二宮輝(ごみ投げ込み体験)、野村直史(副代表)、橋本健(副代表)、広瀬朋子(プース紹介)、堀井和樹(ごみ投げ込み体験)、相原祐子(プース紹介)、吉谷大(えるちえアドベンチャー)、森森美子(web)、松村安希子(ステージ担当)



青空タウンミーティングには多くの人が



「マイグッズを作ろう」コー



フリーマーケットも盛況だった



関係者の風情



エコファイター紹介による



ステージで環境教育を行う関係者



フリーマーケットの様子

蛍光灯の適正処理のために

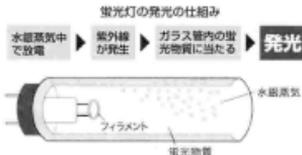
原 強 (NPO法人コンシューマーズ京都 理事長)

環境負荷があるのに 処理システムがない

蛍光灯には、その発光原理がいつまで微量ながら水銀が使用されています。従って、蛍光灯が「ごみ」になった段階で、適正な処理が行われなければ、使用されている水銀が環境負荷要因になりうるのです。この点以前から指摘されてきたのですが、適正処理のシステムづくりはなかなか進められずにきました。

近年、蛍光灯の再資源化に向けての技術開発が次第に進歩し、事業所から出される「産業廃棄物」処理の一環として部分的にはあれ成果をあげようになつていますが、家庭から出る蛍光灯についてはまだまた処理システムが整備できていないのが実態です。

問題は、多くの品目別では、多くの品目でリサイクルが困難な実態にあるのと同じように、再資源



化のための技術は準備されたものの、蛍光灯を収集・運搬するための社会経済システムができていないということです。

適正処理のための 勉強しよう

このようなことが、今回の調査では、蛍光灯の適正処理のための技術や事業者の現状を把握することからはじめました。問題を多くの方と共有するために、9月28日、野村興産関西工場の見学会を実施しました。この日、事業者の方もくめて25名の参加があり、往復のバスの中で交流もふくめて有意義な企画になりました。

まず、伏見区横大路の旭興産業を訪問しました。ここでは乾電池の分別作業とともに、持ち込まれた蛍光灯を破砕し減量する中間処理作業を見学しました。破砕時に水銀が飛散しないかということが気になるのですが、「空気処理をしているため問題はない。労働安全のための環境基準との関係はこのチェックもやっている。」との説明をうけました。

引き続き大阪市西淀川区の野村興産関西工場を訪問しました。移動中のバスの中で関西

営業所の黒川武樹課長から蛍光灯や乾電池の適正処理の現状を聞き、さらに工場でも野村興産全体の作業の流れのなかでの関西工場の位置づけや運転開始以後の現状報告などの説明をうけたあと、現場を見学しました。

関西工場の作業はガラスの再資源化に重点が置かれており、西日本各地から集まった蛍光灯が含まれる残余物を北海道・イトム力に送るといふことを行っています。全体として環境汚染防止、労働安全管理のための対策も行き届いているようです。参加者の目にとまったのが、フィルム処理してある蛍光灯を一本、一本、ナイフを使い、フィルムを剥がす作業でした。購入時にはそれが利点になるものが、廃棄段階ではやっかいなものになるものが見本のさな気がしました。



回収した蛍光灯を削いで中核処理

「やっかいなごみ」の調査にはじまって

コンシューマーズ京都では、2003年度、「家庭系有害廃棄物の適正処理のために」というテーマで調査研究を進めました。京都市ごみ減量推進会議の総会で報告の機会をもたせてもらいましたが、家庭から出る「やっかいなごみ」の実態把握、いくつかの自治体の対応についてのヒアリングなどから問題をひろい出す活動をすすめ、最終的にスプレー缶の再資源化等をめぐっていくつかの提案を行ったところです。2004年度はこの調査研究で積み残した蛍光灯の適正処理について調査研究を進めています。



有害重金属である水銀を抽出した後、ガラスとして碎かれる。



見学会前



野村興産大阪支社にて、講義を受ける

蛍光管と合わせて、パンフレットを作成

この見学会で学んだことをさらに多くの消費者に伝える機会に選ばれ、11月6日、京都市会所前広場で開かれた「京路地フェスタ2004」でブース、ステージで啓発活動を行いました。

また、これらの活動と並行して、啓発用パンフレット「家庭から出るやっかいなごみ」の編集発行をすませましたが、11月月末に日本環境協会「緑本倍子基金」の助成のもと、完成させることができました。みなさまにもご活用いただければ幸いです。

蛍光管の適正処理のシステム構築を

関西地区には野村興産以外にも、兵庫県に神崎環境ソリューション、三重県にエヌアイエなど、蛍光管の適正処理に向けて取り組みをはじめた事業者があります。これらの事業者と自治体関係者との連携により、手がついていなかった蛍光管の適正処理にもむけて進められていくと思います。最大の問題は、家庭から出る蛍光管などのように収集し処理事業者のところに運び込むが、その場合の作業の負担とコストの負担とをどうするのかということです。京都市ごみ減量推進会議の中でもこのような問題を検討し、蛍光管の適正処理にむけてシステム構築ができればと念じているようです。

啓発用パンフレット

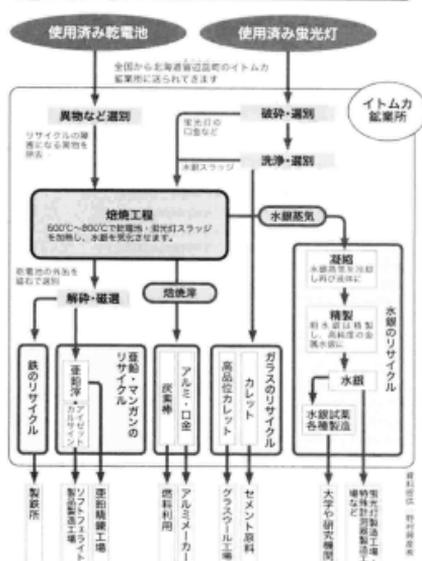
どうするの!? 家庭から出る やっかいなごみ



蛍光管や乾電池、スプレー缶、プラスチックと、適正処理に困るごみについて、わかりやすくまとめた冊子（A5サイズ・16ページ・04年11月コンシューマーズ京都発刊）お問い合わせは、京都市ごみ減量推進会議事務局へ

水銀とは・・・
元素記号Hgを持つ重金属。蛍光灯をはじめ、温度計などの計器、歯科用合金などの製造に用いられる。極めて強い毒性を持ち、規定量を超えると人体への影響が懸念される。内分泌攪乱物質にも挙げられている。アメリカでは、有害大気・水質汚染物質、有害廃棄物に指定されている。

使用済み乾電池と蛍光灯のリサイクル



めぐるくん推進友の会をはじめ多くの協力で 買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン実施

【済みみ天ぷら油問



「ふれあいまつり」のブース

13の政令指定都市と東京23区の大
都市で構成される大都市清掃事業協
議会は、10月をリサイクル月間とし、
ごみ減量への啓発活動を展開してい
る。その動きに連動し、京都市ごみ
減量推進会議も10月、買い物袋持
参・簡易包装推進キャンペーンを
2日間2カ所で実施した。今回は、
京都市ごみ減量、めぐるくん推進友
の会、下鳥羽地域ごみ減量推進会議
などの団体と協働しての実施とな
り、より幅広い展開となった。

10月10日(日) 深草ふれあいプラ
ザで行われた「ふれあいまつり」
(主催：京都市伏見区役所)で、京
都市ごみ減量推進会議も京エココロシ
ンセンターとともに軒を連ねた。

この日は、クイズ形式で買い物袋持
参を呼びかけ、クイズに回答した人

に大都市共同キャンペーン用の買い物
袋を4000袋を配布した。

10月15日(金) 午後、イズミヤの
カナート洛北店(左京区高野)の地
下1階イベントスペースを借り、買
い物袋持参の呼びかけをテーマに、三
二講演会が開かれた。講師は、山内
寛氏(京都市ごみ減量めぐるくん推
進友の会会長)と浅利美鈴氏(京都
大学環境保全センター)の2名。買
い物ついでに立ち寄った来場者に買
い物袋800袋を配布した。



カナート洛北に買い物袋やマイバスケツトを展示



カナート洛北に買い物袋持参を呼びかけ

島津製作所、カナート洛北、宝酒造・ 3企業のごみの現場を見学

平成15年度から「ごみ減量実践講座」に連動して企画された「見て聞いて・ごみ対策ツ
アー」。今期も3企業の協力で実施した。第1回は島津製作所(9月16日)、第2回イズミ
ヤ・カナート洛北店(10月15日)、第3回宝酒造(11月25日)にうかがった。各企業の基本
的な環境戦略やその業態に合わせたごみゼロへの取組を紹介してもらい、資源分別の現場
もそかせてもらった。



島津製作所



カナート洛北



宝酒造

「京路地フェスタ2004」に出席 クイズでごみ減量を呼びかけ

11月6日京都市役所前広場で開
催された「京路地フェスタ200
4」(主催：京都市)に、京都市ご
み減量推進会議が出席した。市役
所前広場の一角に設けられたブ
ースでは、「リユースびん事業化活動
小委員会」が、制作したリユース
びんのマップを配布するなど、日
頃の活動を紹介した。また、簡単
なクイズ形式によるごみ減量への
啓発も実施。子どもたちの人気も
集め、多数が参加した。



リユースびんの展示や
マップを配布



ごみ減量クイズ



「海に流れ込むプラスチックについて」、
下鴨小学校教諭
による「下鴨小学
校での取組、東山
高校地字部学生で



4人参加報告

「海に流れ込むプラスチックについて」
下鴨小学校教諭
による「下鴨小学
校での取組、東山
高校地字部学生で

「やめてんか不法投棄」に高橋さんらが出演
を話された。
後のめぐるくんの活動にの経験
を話された。
この劇には市民参加の場面も
あり、京都市ごみ減量 めぐる
くん推進会の会の高橋かつ子エ
キンを含める名が役者としてア
ニメをされた。高橋さんは「今
後、めぐるくんの活動にの経験
を話された。」

「やめてんか不法投棄」に高橋さんらが出演
を話された。
後のめぐるくんの活動にの経験
を話された。
この劇には市民参加の場面も
あり、京都市ごみ減量 めぐる
くん推進会の会の高橋かつ子エ
キンを含める名が役者としてア
ニメをされた。高橋さんは「今
後、めぐるくんの活動にの経験
を話された。」

「第5回環境フォーラムきょうと」 産廃劇で不法投棄を止めよう」と訴え

市民にとって身近な問題である不法投棄をテーマに、04年11月27日(土)午後、第5回環境フォーラム「きょうと」が開かれた(会場：京都市北文化会館)。この催しは増え続ける産業廃棄物を行政・企業、市民の力により減量することを目的に、京都市環境局の主催で99年より開目にある。第1部は、事例発表でごみ問題解決に取り組む4名の発表があった。
下鴨小学校教諭による「下鴨小学校での取組、東山高校地字部学生で



第4回講座 講師 上田泰史氏



第1回講座 講師 白根保氏



第4回講座 講師 植木力氏



第2回講座 講師 竹本希子氏

2000年より京都商工会議所の共催で主に企業向けに開催している「エコロジーはエコミー」ごみ減量実践講座。今期も04年9月第1回の開講に続き、今話題のCSR(企業社会貢献)、グリーン調達などをテーマに多様な講師陣にのすでに4講座を閉講した。2月10日は、「衣料リサイクルの現状と課題」をテーマに、服飾老手氏(フアイバーリサイクルネット(高島屋京都店)と丸山郁夫氏(高島屋京都店)を講師に迎えて第5回講座を開講する。



第1回ごみ講座風景

時代の動きにかなったテーマで 04年度ごみ減量実践講座開催

市民向けごみ減量実践講座開催のご案内 ～環境保全活動とごみ減量対策～

ごみ対策や循環について現場を見て学ぼうと、今期の市民向け講座は2カ所の施設見学が企画された。今、市民を中心に参加を募っている。いずれも参加無料。

- 定員40名 専用バスにて
- お申し込み締切は2月10日(木)
- ※お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
- 詳しくは、京都市ごみ減量推進会議事務局へ(電話257・5053)

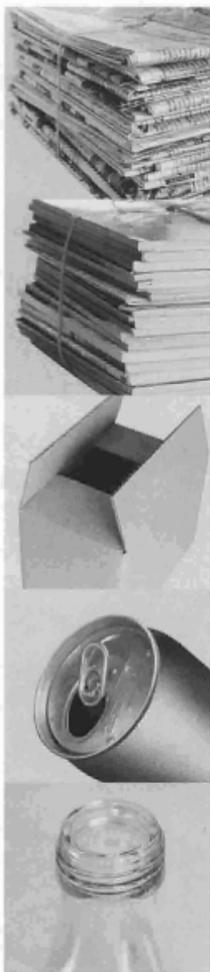
- 第1回 未来型のリサイクルを実践するカンポリサイクルプラザ(株)を見学**
場所：京都府船井郡園部町高屋西谷1
日時：平成17年2月17日(木)
集合：午後12時30分 京都市役所前広場
- 第2回 食品廃棄物を先進技術でリサイクルする京都有機質資源(株)を見学**
場所：長岡京市神足定落迹1
日時：平成17年3月17日(木)
集合：午後1時 京都市役所前広場

新しい
資源回収
のスタイル

コミュニティ回収制度を創設

京都市では平成16年9月から、町内会やご近所のグループなどによる、新しいかたちの資源の集団回収として「コミュニティ回収制度」を創設しました。

これは、家庭ごみの減量化や資源のリサイクルの取組として行われてきた従来の集団回収を更に発展させた制度です。制度といっても、むずかしいものではなく、これから集団回収をはじめてみようと思われる方々にも気軽に取り組んでもらえるよう、それぞれの地域の実状に応じて、京都市が側面からサポートをするというものです。



**地域にあった回収の仕組みを
みんなで話し合って決められます。**



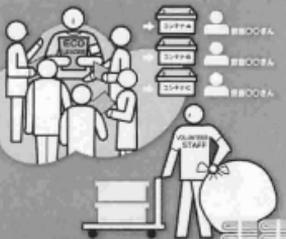
コミュニティ回収に参加したい人たちが集まって、みんなで地域にあった回収の目的や最適な回収方法を話し合って決めましょう。又、この制度をご存じでないご近所の方々にも広く参加を呼びかけてください。

**一人一人ができる範囲で参加し、
協力する—それが大きな力に！**



資源回収日には、決められた集積場所に各自が資源を分別して出します。重い荷物の運び出しなど、みんなで協力して出しましょう。

**必要に応じて、エコリーダーや
ボランティアスタッフがお手伝いします。**



資源の出し方がわからない場合や実施日の都合の場など、必要に応じてエコリーダーやボランティアスタッフを派遣します。

**古紙回収以外にも、缶・びん等の
リサイクルにも取り組みます。**



缶はアルミ缶・スチール缶に分けたり、びんは色ごとにコンテナ回収をしたり、独自の排出方法で回収することもできます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

京都市 環境局 環境政策部 循環型社会推進課

〒604-8571 京都市中京区寺町通池上る上本能寺前町488番地

TEL.222-4091 FAX.213-0453

www.city.kyoto.jp/kankyo/recycle/index.html

知っておきたい。 自動車リサイクル法のポイント

05年1月から所有者がリサイクル費用を負担し、自動車メーカーなどがリサイクルする仕組みで「自動車リサイクル法」が施行された。新車購入時、あるいは現在所有している車については車検時などに一定のリサイクル料金を払わなくてはならなくなった。

日本では年間約400万台（中古車輸出を含めれば約500万台）が廃車にされるほか、不安定な鉄スクラップ市場に影響を受け従来のリサイクルシステムが機能不全に陥りつつあること、さらに、破砕くずを埋立てする最終処分場の確保が困難になってきていること、また、フロン類、エアバッグ類の処理による環境汚染への懸念が法制定を促した。

自動車リサイクル法で、義務づけられたのは①「破砕くず」（シュレッダーダスト）②フロン類③エアバッグ類、3品目のリサイクルだ。これまでもボディは鉄スクラップにされ、その他バッテリーなどの部品も再利用されてきたが、自動車の車種や型式によって一定のリサイクル料金を払い、1台で95%以上の再資源化を目指す。この料金は（財）自動車リサイクル促進センター内に設置される資金管理人により、その車が廃車されるまで長期にわたり管理される。また、適正処理を徹底するため自動車一台一台ごとに電子マネーフトを利用して情報管理される。

ある自動車リサイクル工場で実状を見聞した。訪ねたのは（株）ラ・テール（京都市南区）で、自動車解体業47年の実績があり、法に対応するため、いち早く「解体・破砕業許可」「フロン類回収登録」などの認可を受けたこの工場では、整備された設備の下、ていねいに作業が行われていた。



引き取られた車両

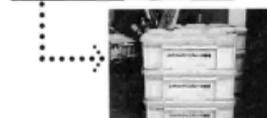
不凍液・ガソリンが抜き取られる。



フロンが回収される



ガスボンベに入れられ、フロン類破壊施設へ。



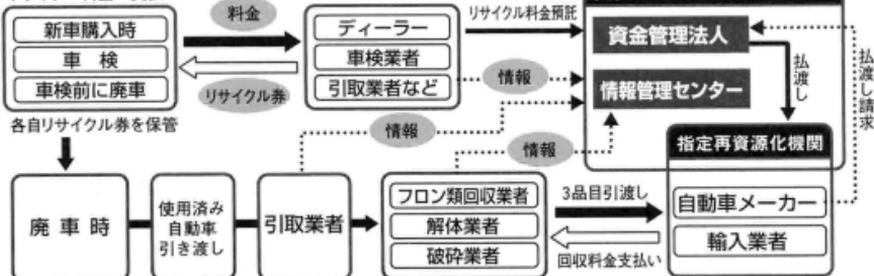
エアバッグもはずされ、専用回収容器に入れられリサイクル施設へ



ボディは解体後、プレスされ、再資源化施設に

自動車リサイクル法の流れ

リサイクル料金の支払い



会員探訪



【左から】取材に応じて下さった総務部長 部長代理 吉川正和さん、副総務課長 奥村伸史さん

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶりで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回も1団体の活動を取材しました。

取材：遠利美鈴（京都大学環境保全センター 大学院生）

株式会社 京都銀行

Q 地元の銀行として親しまれていますが？

A 京都銀行（以降、当行）は、昭和16年に京都府下の4行が合併し、丹和銀行として創立されました。その後、昭和26年に「京都銀行」と改称するとともに、昭和28年には本店を京都市に移転し、名実ともに京都市の中核金融機関としての体制を整え、今日に至っています。

Q 紙のリサイクルに積極的に取り組んでおられますが？

A 社会の持続可能性への意識の高まりや焼却炉廃止の流れの中で、平成10年からスーパーリサイクル事業を始めました。従来、行内で発生する廃棄書類は機密保持のため焼却しておりましたが、廃棄文書回収車で定期的な各支店を巡回して回収し、それを宇治市にある積島文書センターで裁断・固形化処理しています。現在、年間約660トン进行处理しており、それを原料の一部としてティンシールペーパーや文具、メッシュ用紙などに加工し、お客様への提供としてもお返ししております。



積島文書センターでの作業の様子

Q トイレレットペーパーを循環させているとか？

A 平成13年に創立60周年を迎えたのを機に、京都府内の公立小中学校、府立・市立の普通学校へ、先述のリサイクル原料で作ったトイレレットペーパーの寄贈を始めました。現在、合計で年間約20万ロールを、約630校へ年2回にわけて寄贈しております。子どもたちの環境問題へ

Q これが天然ガス自動車ですか？

A 廃棄文書回収車3台のうち1台です。

更新時期が到来したため、従来のディーゼル車に替えて「天然ガス自動車」を導入することとしたものです。環境に優しく、いわれておりますが、具体的に、黒煙を排出しない、機性汚染の原因とならない、酸性物質をほとんど排出しない、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や光化学スモッグの原因となる揮発性有機化合物の排出量も低減する、騒音・振動が大幅に低減するといった特徴があります。



新たに導入された「天然ガス自動車」

Q 使用済み蛍光灯ランプのリサイクルシステムとは？

A 平成15年12月から、それまで各支店で独自に廃棄処分していた使用済み蛍光灯ランプを本店に回収し、一括管理しています。平成16年9月に保管容量約5000本に達したため、リサイクル第1号として、委託しているリサイクル専門業者へ搬送しました。行内での蛍光灯ランプの搬送には廃棄文書回収車を利用し、効率化を図っております。蛍光灯ランプには微量の水銀が含まれており、環境汚染防止の観点から重要視が組みだち考えられております。また、水銀だけでなく、ガラスや蛍光粉、アルミ、鉄といった素材も再生され、資源の有効利用にも結びついております。

Q 今後の展開は？

A 平成15年9月事務センターにおいて、品質管理システム及び環境管理システムが困難

規格であるISO9001及びISO14001の認証を同時取得致しました。これらを経営的に運用することで、顧客満足度の向上と環境へ寄与していきたいと思っております。



集められてリサイクルに回されるのを待つ蛍光灯



リサイクルする紙を回収するエコバックはPETボトル再生製品

株式会社 京都銀行

本社所在地：
〒600-8652 京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地
TEL：075-361-2277（総務部）FAX：075-343-6391
URL Home Page：http://www.kyotobank.co.jp/
取締役頭取：柏原康夫

創立：1941年（昭和16年）10月1日
資本金：271億円（平成16年9月30日現在）
従業員：2,743人（平成16年9月30日現在）
拠点数：340カ所（本支店119、出張所5、店舗外ATM215、海外駐在員事務所1）
上記のほか、株式会社アイワイバンク銀行との提携による共同の店舗外ATM9,256カ所

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

4団体の二人三脚できりもり 得意分野を持ち寄って

元町ごみ減量推進会議（北区）

元町ごみ減量推進会議は、保健協議会、社会福祉協議会、婦人会、小学校PTAの4団体で4年前に発足。各団体の役員10名がごみ減の役員を兼任する形で運営している。PTAは土曜の行事が多いため、回収は主に他の3団体の当番制で受け持つ。回収前は処理に困っている人が多く、下水に直接流したり、凝固剤で固めたり新聞紙にしみ込ませてごみに出す人も。「何度もチラシを配布して説明するうちに理解が広まった」と岡本会長。課題は拠点をもう一方所増やすことだ。



同会では独自に乾電池の回収も行う。これは酒店を営む会長が配達時を利用して美化センターへ持ち込む。2年前、資源ごみ回収のモデル地区となり、プラスチックごみの回収にも協力したときは、分別や回収日が混乱。そこでパソコンによる絵を活かしたポスターを作り、理解を促した。また鴨川が近いため、悩まされる犬の糞の不始末に対しては、目に止まりやすい張り紙を作るなど、会員の得意分野を生かした工夫を重ねている。

来年度は廃食用油燃料化施設の見学ツアーを予定。活動費の不足分は各団体からの補填でまかなっている状態だが、今後も勉強会や施設見学など活動を広げたいと意欲的だ。



役員のみなさん、左から横山さん、横山さん、会長の岡本さん、上田さん。

- ◆会長：岡本信一
- ◆発足：2000年（平成12年）8月
- ◆使用済み天ぷら油、乾電池の回収：拠点は1カ所。
- ◆毎月第2土曜日、午前10時半～11時半。

取材：間かおる

コミュニケーションをはかり 連携体制での回収

六原地域ごみ減量推進会議（東山区）

食品スーパー、ハッピー六原の玄関横に張られたテナントの中で会長と担当者が挨拶。油を持参した人々が、買い物のついでに「入れていって」と、当番に廃食用油を渡す。油を持参する人が集中すると、近くの商店から手伝いが。和やかな廃食用油の回収風景だ。

回収告知は、町内会の回覧だけでなく、拠点となるハッピー六原のチラシでも行う。その効果が京都駅周辺からも集まる。「自分たちができること」をと、女性会が主となり廃食用油の回収を始めた。地域ごみ減量推進会議の立ち上げに向けて、「勉強会を重ね、しっかりとリサイクルの流れが頭に入っている」と本政八重子会長。



「環境に良いことができてうれしい」、「油の処理の手間もなくなった」など、回収への賛同の声も届く。ごみに関する意識が向上し、運動会では資源ごみと家庭ごみを分別収集し、会議では使い捨ての紙コップがくり返し使える湯飲みが変わった。

今後は京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会の協力で廃食用油での石けんづくりを小学校で実施する。校長先生も乗り気だとのこと。回収拠点であるスーパーの店長をはじめ、回収に関わる人々がともに喜び、楽しみ、誇りを持つことが活動の原動力となっている。



左から尾崎さん（六原体育部会長）、本政会長、小山さん（ハッピー六原会長）



出番さんはおそるの工房まで。

- ◆会長：本政八重子
- ◆発足：2003年（平成15年）10月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：回収拠点は食品スーパーハッピー六原玄関横。
- ◆毎月第4月曜日、午前10時～12時

取材：田中真砂世

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

取材：岡かおる

大量に出された新品の油に唖然 足かけ6年で地域に浸透

出水地域ごみ減量推進会議（上京区）

二条城の北西に位置する出水学区。ここで使用済み天ぷら油の回収が始まったのは6年前。当時「めぐるくん推進友の会の会」のメンバーだった会長の加藤アイさんは、会議で回収を勧められたのをきっかけに、まずは女性会で取り組むことに。2年後、地域団体の理解を得て、女性会を母体とした出水地域ごみ減量推進会議を立ち上げた。

回収拠点は役員宅で現在10カ所（近く11カ所になる予定）。地域だよりやポスターで回収を呼びかける。課題は回収時の油污れと新たな拠点作り。回収を始めた頃は賞味期限切れの新品の油が大量に持ち込まれ驚いたという。多くは贈答品で処分しきれず困っていたものらしい。「今では使用済みのものがほとんどで、回収量も増えてきた」と加藤さん。最近では近隣学区からの持ち込みも多い。

同会は小学校で環境学習の授業も行う。4年生にはごみ減量の基本である3Rの話、5年生には廃油石けんづくり。子どもたちが家に帰って親と話をするごと、身近な環境について考えるきっかけにできればと期待している。



役員のみなさん。
左から川崎さん、沢井さん、会長の加藤さん、大橋さん、西田さん

- ◆会長：加藤アイ
- ◆学区世帯数：3300世帯
- ◆発足：2000年（平成12年）8月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：回収拠点は10カ所
毎月第3水曜日、午前8時～11時

油に食器に買い物袋 いろいろな形でごみ減らし

滋野ごみ減量推進会議（上京区）

滋野学区にごみ減量推進会議が発足したのは5年前。市政協力委員会の要請を受け、社会福祉協議会が引き受けることに。すでに油の回収を行っていた隣の学区を見学後、全家庭へ協力を呼びかけるチラシを配布して回収を開始。拠点は14カ所。学区内に均等に配置することで気軽に持って行けるよう配慮した。当初、玄関先に置いたポリタンクが危険だと注意を受けたことがあったが、消防の説明によれば常温では火を近づけても発火の危険はないとのことだ。

同会では、マイバックの持参やごみの持ち帰りを呼びかけるほか、今年度から運動会や餅つきなど、地域の行事で使用する食器を使い捨ての食器から陶器に変更し、リユースを実践している。陶器は少年補習所ですでに所有しているものを利用した。洗い物は大変だが、行事の後に出るごみは格段に減った。

活動は広がったが、「チラシやポスター代すら賄えないのが現状」と会長の池崎照夫さん。金銭的にも労力的にも役員の負担が増えてしまうのが悩みの種のような。



役員の方。左から会長の池崎さん、青谷さん、中橋さん。

- ◆会長：池崎照夫
- ◆ごみ減量会員数：14人
- ◆発足：1999年（平成11年）10月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：拠点は14カ所。
毎月第1水曜日、午後1時～2時



盆踊りのうちの裏にも「ゴミを減らそう」の回収が。

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.27

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2005年（平成17年）1月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局 環境政策部 循環型社会推進課内
TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453
京都エコロジーセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444
E-mail gomigen@mbx.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>
企画編集：京都市ごみ減量推進会議普及啓発実行委員会（会報誌・ホームページ小委員会）
滝川美鈴・梶野真生・大橋正明・岡 かおる・西田敬光・森田知都子
事務局：西谷竹二・田中真砂理

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） | 1口1千円
（年間1口以上） |
| 専門家（学識経験者等） | |
| 地域ごみ減量推進会議 | |
| 大学・マスメディア・事業者団体
企業等・行政 | 1口1千円
（年間2口以上） |

詳細は、事務局へお問い合わせください。